

<全体分析>

試験時間 2科目120分

解答形式

記述式・論述式・描図式・空所補充

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

全学科共通の設問と、医学科のみの設問がある。医学科用の設問はやや難しいことが多い。

また、数学の力を要する問題や、図・グラフを描かせる問題、一般的には出題頻度の低いテーマが出題されることがある。

その他ピックス

なし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	問形式	力学 (浮力の式の導出)	物理基礎	二つの立体について、微小面にはたらく力を足し集めて浮力の式を導出する。微積分の概念の理解が必要である。ただ、具体的な積分計算はせずに済むように作られている。求める浮力はよく知られた式であるから、それまでの計算が正しいか確認ができるし、そのみを答えることもできる。また、昨年も浮力に関する問題が出題されている。 近年、微積分を少し取り入れることが多いので、過去問などで慣れておこう。	標準
2	問形式 空所補充	電磁気 (抵抗, コンデンサー, コイルを含む直流回路の過渡現象, RC交流回路)	物理	問3までは、ほぼ基本問題。確実に得点したい。科学大(医歯学系)では、以前から過渡現象がよく出題される。問4は医学科のみの解答する設問である。交流回路であるが、こちらも(1)(2)は基本問題である。(3)は片対数グラフの描図であるが、いくつかの点をプロットしてつなげばよい。	易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基礎～標準的な問題は、素早く確実に解けるように、また、誘導が少なくても解けるようにしておこう。さらに、様々な応用問題にも取り組み、多様な問題に対応できる力も養っておこう。答案には途中過程も必要であるから、簡潔な解答を書く練習もしておこう。